



友愛の森(二中だより)

学校教育目標

二中文化を創造する生徒

学びが深まる授業の創造・認め合える学級の創造・共に高め合う学校の創造

令和6年1月5日発行

1月



ポジティブな思考と行動で、しなやかに ～ 3学期始業式式辞より ～

校長 望月 俊伸

新年、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。いよいよ新しい1年がスタートしました。皆さんは、令和6年をどんな年にしたいですか？

先日、元スピードスケート日本代表の高木菜那さんの講演（演題「なな転び八起き～いま私が伝えたいこと～」）を聞いてきました。高木さんと言えば、18年平昌五輪に出場し、2つの金メダルを獲得するなど、華々しい活躍をされた選手です。ところが、22年北京五輪の女子団体追い抜き（パシュート）決勝では、終盤までリードする展開でしたが、最終6周目でバランスを崩してしまい無念の転倒、大きな挫折を味わいました。世間の人にとっては、平昌五輪は成功、北京五輪は失敗と思われがちですが、高木さんにとって北京五輪は、「未練はあるけど後悔はない大会だった。」とおっしゃっていました。その前向きな言葉はどこから来るのでしょうか？

皆さんは、「レジリエンス」という言葉を聞いたことがありますか？「レジリエンス」とは元々、工学や物理学の世界で使われていた言葉です。物質や物体に対して外力が加わると変形します。その時にどれくらいその力を吸収することができるか、また、どれくらいその力を取り除いて元の形に戻ろうとすることができるかが、物質や物体のもつ「レジリエンス」です。近年は「困難やトラブルに直面しても、しなやかに適応し、乗り越える力」・・・「回復力」「弾力性」「適応力」といった心理学的な意味で使われるケースが増えています。

世の中には、過去のトラウマや恐怖の記憶から立ち直れないまま、生きる気力を見出せずに人生を送っている人々がいる一方、高木菜那さんのように辛い経験を乗り越えて、前向きにたくましく生きている人たちもいます。できれば誰もが後者のように、健康的で幸せな生活を送りたいと願うでしょう。

心理学者のアルバート・バンデューラ博士は、「レジリエンス」を鍛えるためには、自己効力感を高めることが鍵であると提唱しました。自己効力感とは、「自分の能力を信じる気持ち」を意味します。簡単にいうと、「自分ならできる」「きつとうまくいく」と思える感情のことです。人間は何か行動を起こす際にエネルギーを必要とします。大抵の行動は「リスク」を伴うため、誰も行動を起こす際に、ある程度は「もし、失敗したらどうしよう」という不安がよぎります。自己効力感とは、この不安な感情がよぎった際に、不安を超えて「大丈夫だ」「できるはずだ」と考え、行動につなげることができる原動力になります。では、自己効力感を高めるにはどうしたらよいでしょう？

先ほどの講演会で高木菜那さんは、「人と比べる」とか「人のマネをする」ことにとらわれず、自分の本当の心の声に耳を傾けて、今の自分を認めることが大切だと言っていました。それができて初めてポジティブな考え方ができるそうです。また、北京五輪の辛い経験から、努力と結果は比例しないことを思い知らされた上で、「努力することに無駄なことはひとつもない。今やっていることは、すぐに結果に結びつくとは限らないけれど、絶対自分の力になる。」という境地に達したそうです。「失敗は悪いものではなく、挑戦している証拠。成功という結果の先に幸せがあるのではなく、努力した先にこそ幸せが待っている。」というお話に、感銘を受けました。

3学期はまとめの学期です。また、3学期は次のステージへの大事なステップとなる学期でもあります。大変なこともあるかもしれませんが、自分がどんな姿でゴールしたいのか、その成長した姿を想像し、「自分ならできる」「きつとうまくいく」と信じて、ポジティブな思考と行動で、しなやかに乗り越えていきましょう。皆さんの今年1年のますますの飛躍を期待し、3学期始業式の挨拶とします。

令和4年度後期・令和5年度前期生徒会から

令和5年度後期・令和6年度前期生徒会へ

生徒会引継式で、前生徒会長馬飼野愛加さんが、「私たちはコロナを経験し、これまで当たり前だった在り方、考え方が大きく変化した瞬間を経験してきました。そして、自分たちも変化を求められる中で挑戦の連続であったこの1年は、時には厳しい判断や、大きな壁に直面することもありましたが、その都度、皆さんの協力と助けを得て、前進することができました。…生徒自らが学校生活をより良くしたいと一生懸命考えて意見を出し、皆と討論することこそが大きな成長であり、学びだったと思います。…これからの生徒会がさらに発展し、この歴史ある二中での生活を豊かにし、生徒会員皆が笑顔で学校生活を送れることを心から願っています。」と述べました。

それを受け、新生徒会長佐野菜々美さんが、「不安な気持ちもありますが、今後の活動にワクワクしている自分がいるのも事実です。今まで先輩方に教えていただいたこと、これまで経験してきたことをこれからの活動に生かし、二中文化、そして二中の良さを受け継ぎながら、新しいメンバーでできることをたくさん増やしていきたいと思います。『昨日より今日 今日より明日 明日よりも明後日』というふうに、私自身も日々変わり続け、一步ずつ前進していけるようにがんばりたいと思います。そして、一人一人の足りないところはみんなで補いながら、二中学生全員が輝けるこの環境を守り続け、二中の進化へつないでいきます！」と力強い意気込みを述べました。

令和5年度後期・令和6年度前期生徒会本部役員

生徒会長	佐野菜々美さん
副会長	河村真太郎さん・神山ゆきさん・近藤風道さん
書記	秋武瑠那さん・千村侑志さん・松本心輝さん

生徒総会（12月7日）～新体制が本格的にスタートしました～

新生徒会本部主導の下、生徒総会が実施されました。令和4年度後期・令和5年度前期生徒会活動報告の後、令和5年度後期・令和6年度前期生徒会活動目標・方針について話がありました。その後、「生徒会スローガンに対する意見交換」と「全力で力を入れていくべき二中文化とはなんだろう」という議題で全校討論が繰り広げられました。

多くの生徒が積極的に自分の考えを述べ、議長団が、指名に困るほどの勢いがありました。富士宮第二中学校をより良い学校にしていきたいと思う一人一人の気持ちが感じられ、これからの富士宮第二中学校のさらなる成長に期待が高まるスタートの時となりました。



令和5年度後期・6年度前期生徒会スローガン決定！！（12月18日）

「 日進月歩 」

アンケートの結果を基に、令和5年度後期・令和6年度前期生徒会のスローガンが決定しました。生徒会長の佐野菜々美さんから、以下のような説明がありました。

日進月歩には、日々進化・進歩するさま、という意味がこめられています。お互いの個性を生かせる環境を今後も守り続け、自分たちらしく一步ずつ一步ずつ前進できるような生徒会を築いていきたいです。

日進月歩はこれからの私たちの生徒会活動を指し示し、軸となる大切なスローガンです。生徒会活動目標にもある、「さらなる進化を遂げる生徒会活動」にするためにも、全校の皆さん一人一人の協力が必要です。先日の生徒総会では、たくさんの意見を出していただき、二中をより良くしたいという皆さんの思いを感じることができました。それぞれ委員会は違いますが、それぞれの場所で「日進月歩」を基にがんばっていきましょう。